



畜産総合センターよういん通信

平成29年11月

○3品種の系統豚を利用したブランド豚肉の畜産課HP掲載について

愛知県は、3品種の系統豚を開発、供給している唯一の県ですが、この3品種の系統豚を用いて生産された三元豚を「愛とん」と総称し、シンボルマークを制定しています。

現在、この「愛とん」を素材とし、生産者の皆様が飼料や飼養方法等に独自の工夫を加えたブランド豚肉について、愛知県農林水産部畜産課のホームページにて、販売店や取扱飲食店を掲載しています。

新たにホームページに掲載を希望される方は、畜産課までご連絡ください。多くの検索エンジンで「愛知 豚肉」とキーワードを入力すると、検索結果のトップに表示されますので、ブランドPR等にご利用いただければ幸いです。



<「愛とん」のシンボルマーク>

URL : <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/chikusan/0000048567.html>

◇臭気対策について専門家からの情報収集を行いました

近年は都市化が進み、近隣住民等からより一層の畜産環境対策を求められるようになりました。当所においてもこれらに対応していくため、効果的な臭気対策を模索することを目的とし、①9月13日～14日に自治体及び団体職員を対象とした臭気対策研修会（講師：畜産環境アドバイザー 本多勝男氏）を受講し、②10月25日に畜舎の臭気拡散防止について研究している宇都宮大学の池口教授への聞き取り調査を実施しました。

概要を報告しますので、皆様の経営においても参考になる部分があれば幸いです。

①臭気対策研修会（講師：畜産環境アドバイザー 本多勝男氏）

- ・臭気対策の基本は、適切な飼養管理と速やかなふん尿処理。
- ・畜舎内のボロ出し、洗浄、こぼれた飼料の掃除などをこまめに行い、主な悪臭の元であるふん尿を極力速やかに畜舎から除去し、堆肥化・浄化処理していく。
- ・臭気物質の濃度が高い空気に触れると「くさい」と感じるので、濃度を濃くしないようにする。すなわち、密飼いを避け、換気の良い環境で適正な飼養密度で飼う。
- ・これらの対策は基本的ではあるが、生産性向上にもつながる。
- ・畜舎周囲の環境をきれいに保つなど、近隣住民の方々に配慮している姿勢を見せることも大事。

②宇都宮大学農学部農業環境工学科 池口厚男教授

- ・ 畜舎で発生した臭気物質の多くは、ホコリやチリ状に舞う飼料などに付着して、風に乗って遠方まで運ばれる。
- ・ よって、ホコリやチリが遠くまで飛んでいかないような対策が効果的。
方法例1：畜舎内にミスト（細霧）装置を設置し、給餌時間などホコリが舞いやすい時間帯にミストを噴霧する（水でホコリを落とす）。
方法例2：畜舎周囲（特に風下）に畜舎の軒高さの壁を設置し、風（空気の流れ）を遮断・滞留させることにより、臭気源のホコリやチリの飛散を防止する。この壁の豚舎側（空気が滞留する所）にもスプリンクラーを設置すると効果的（水でホコリを落とす）。
壁は網目の細かいネットや、下部まで葉が生えている常緑植物などでも代替できる。
- ・ 複数の対策を、農場の状況に合わせて、組み合わせて実施するとよい。



※詳しくは、畜産環境整備機構ホームページ「日本型悪臭防止最適管理手法（BMP）の手引き」をご参照ください。

URL：<http://www.chikusan-kankyo.jp/bmp/bmp.html>

（連絡先）

◇畜産総合センター：0564-21-0201